

アークフラッシュ施工された老人施設からは6年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

<<通販開始>> <http://homepage2.nifty.com/arc-clean/>

鳥インフルエンザ感染疑いで男性死亡、インドで初

アーメダバード(インド) 19日 インド西部グジャラート州スラート地区の行政責任者は19日、ロイターに対し、養鶏業経営の男性(27)が高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染した疑いで17日に死亡していたことを明らかにした。

同責任者によると、地元での検査では感染が確認されたが、念のため検体は国立研究所に送られ最終結果を待っているという。

グジャラート州に隣接するマハラシュトラ州では過去数日に鳥5万羽以上が死んでおり、その一部から鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)が検出されていた

エジプトで動物園閉鎖 アヒルなどが感染死

高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)の家禽(かきん)への感染が確認されたエジプトで、首都カイロ郊外にあるカイロ動物園のアヒルなど80羽以上が死んでいるのが見つかり、同動物園など8つの動物園が19日、閉鎖された。ロイター通信が伝えた。閉鎖期間は2週間。保健省は死んだアヒルやシチメンチョウなどのうち、6羽の感染が確認されたとしている。

カイロ動物園は563羽の鳥を処分。すべての池の排水や、おりの消毒を行った。同動物園では入園者が鳥などに直接餌を与えることができるという。

鳥インフルH5N1型 仏でも確認、EU緊張 6カ国目

感染じわり拡大

フランスの農業省は十八日夜(日本時間十九日未明)、仏中東部アン県で死んで発見されたカモから、人への感染力がある高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)が確認されたと発表した。H5N1型ウイルスが野鳥から確認された国はイタリア、ドイツ、オーストリアなど欧州連合(EU)内で六カ国となった。欧州最大の家禽(かきん)生産国への感染拡大で緊張が高まっている。

EUは二十日に農水相会議を開くほか、議長国のオーストリアは同夜、ウィーンで二十四日に加盟国およびH5N1型が検出されているトルコやルーマニアなどの保健相らによる緊急対策会議を開き、世界保健機関(WHO)との情報交換などについて協議すると発表した。

フランスは「渡り鳥の十字路口」といわれ、感染は時間の問題とされていたが、他県でも約十五羽の死んだ野鳥が発見されており、検査を急いでいる。シラク大統領は訪問先のバンコクから国民に政府の感染防止計画に従うよう訴えた。

フランスは十五日に全家禽の屋内隔離のほか、感染が確認された時点で(1)半径三キロ以内を保護地域とし、鶏肉や卵の出荷停止、養鶏業者などの車両の移動を規制(2)十キロ以内を監視地域とし、家禽やペット鳥の移動禁止、動物園内の鳥類へのワクチン接種の義務付け - などを決定。EUでも十六日の専門家会議で同様の感染防止策を決めた。

フランスは年間九億羽を生産するEU一の家禽生産国(世界三位)。アン県の近くには「ブレスのチキン」で知られる名産地もある。一月末から鶏肉など平均15%減となっており経済への影響も大きい。イタリアでは鶏肉の消費量は70%減だ。

昨年十月にH5N1型が検出されたルーマニアでは約十五万羽が処理され、損害は約一億ユーロ(約百四十億円)に上った。ドイツでも十八日、新たに二十八羽の感染が判明し、H5N1型検出は計四十一羽に。今後、欧州での感染例は増加の一途をたどるとみられる。

ウッサン仏保健省次官は同日、産経新聞に対し、「スペイン風邪の発端も鳥インフルエンザだった。欧州はもとより、衛生状態の悪いアフリカなどでの感染防止や有効なワクチン対策が急務だ」と述べた。

ウィーンにも拡大か 鳥インフルエンザ

オーストリア通信によると、同国政府当局者は18日、ウィーン市内と郊外で同日までに高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)に感染し死んだ可能性が高いハクチョウとアヒル、それぞれ一羽が見つかったことを明らかにした。

同国ではこれまで、南部シュタイアーマルク州でも同様のケースがあり、検体が英国の研究機関に送られ、最終確認作業が行われている。

*** 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 honbu@arc-flash.com

1号～35号までを配信希望の方はメールにて申込ください。